Newsletter from Center for General Education, Chiba University

普遍ニュースレター

Design : CHIHARA Kazuhiko

2008.12　No.02

“普遍ニュースレター”は、普遍教育センターの活動を中心に
普遍教育・大学教育の動向に関する情報を定期的に紹介していきます（季刊として年4回刊行予定）。

●来年度の普遍教育の授業計画について

普遍教育センターでは、現在、来年度の普遍教育科目の授業計画について作業を進めているところです。来年度、大きな変更が２点あります。

第一は、「テーマゼミ」の導入です。少人数でのアクティブ・ラーニングを推進するために、来年度からあらたに「テーマゼミ」を開設します。来年度については10～15科目の「テーマゼミ」を開講する予定です。授業科目の区分としては、教養展開科目に位置づけることになっています。教養部時代にセミナー科目が開講されていましたが、その後、普遍教育では少人数教育をカリキュラムに組み込んでいませんでした。もちろん個別に少人数での授業を展開されている先生はおられますが、カリキュラム上では講義も実習・演習も区別がありませんでした。今回の「テーマゼミ」の開設が、中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』において示された「学士力」を養う一助になればと思っています。

第二の変更点ですが、今年度より工学部Ｂコースが廃止されました。今年度は移行期間としてＢコース向けの６時間目、７時間目の授業を開講していましたが、来年度は原則的に６時間目、７時間目の授業を廃止することにしています。６時間目、７時間目の授業は高校生への開放科目としても利用されていましたが、それについては５時間目の授業を利用すれば大きな影響はないだろうと判断しました。

なお、来年度の前期には総合校舎Ｆ号館の改修が予定されています。Ｆ号館には、80～90名教室（座席数）が各階２教室（計10教室）、座席数160名程度の講義室が１階と２階に各１教室ありますので、時間割編成上はたいへん苦しい状況になります。従って教室の手当ができたとしても、教室が狭かったり、広すぎたりすることがあるかと思います。学習環境の改善に繋がる改修ですので、なにとぞご理解いただきますようお願いいたします。

運営部長　山内　正平

拡大学習会「わかりやすい授業を考える」を開催しました（９月24日）

９月24日に「わかりやすい授業を考える－聴覚障害学生のための学修支援の立場から－」をテーマに、定例の学習会を拡大して全学の教員ＦＤ研修会として開催しました。コーディネーターは普遍教育センターの山内正平教授、話題提供者は千葉大学ノートテイク会入江佑樹さん（理学部数学科４年）、出席者は33名でした。この学習会の特徴は、入江さんがノートテイク会の活動経験を踏まえて、学生の立場から授業方法に提案を試みている点にあります。ノートテイクとは、聴覚障害のある学生が受講する授業で、教員の講義等の内容を文字に起こして聴覚障害の学生に通訳することです。

拡大学習会では入江さんがパワーポイントを使用して、指示代名詞の多さや、前のスライドの内容をそのスライドに戻らずに説明するなど、教員の無意識の行動がいかに授業をわかりにくくしているのかを「わかりやすく」実践してくれるなど、出席者は聴覚障害者が健常者と同質の教育を受けることの難しさとノートテイカーの努力の一端を知ることができました。山内教授からも、ノートテイクしにくい授業の例が紹介されました。重要なこととして、これらの注意点は障害を持たない学生にとっても授業をより興味深く聞くための基本的な事項であり、教員が少し配慮をするだけで授業が改善されるのではないかとの提案がありました。学習会後半では活発な意見交換が行われ、参加者が自身の授業を振り返ると同時に、千葉大学では、こうした活動を学生のボランティアに頼っている現状を認識する機会ともなりました。当日の記録を普遍教育センターのウェブサイトに掲載していますので、ぜひご一読ください（前田早苗）。

平成20年度「戦略的大学連携支援事業」採択のプロジェクトについて

普遍教育センターより申請していたプロジェクト「ユニバーサルコミュニケーションのための教養教育に向けた千葉圏域コンソーシアム」が、平成20年度の文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択されました。「戦略的大学連携支援事業」は、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化等を図ることを目的に今年度より新しく開始された事業です。本事業の採択に基づき、千葉大学では、神田外国語大学・敬愛大学・城西国際大学の、それぞれ特色ある教育に取り組んでいる千葉県下の三大学と連携し、今年度より平成22年度まで、当面３年間の事業を実施することになりました。

多様性を認めつつ融和的に共存する共生社会を実現するためには、言語・文化・価値観・知識・身体的能力の違いなどを越えて、バリアのないコミュニケーション、すなわち「ユニバーサルコミュニケーション」が成立していなければなりません。国際化のいっそうの進展とバリアフリー社会の深化が目指されている現代社会においては、世界の言語・文化について幅広い知識を持ち、性差や身体的能力の違いにとらわれない開かれたコミュニケーション能力を備えた人材を養成することこそが、高等教育における「教養」の中核的な目的の一つとなるであろうと思われます。このような課題について検討しつつ、端緒的な実践に着手するために、千葉大学をはじめとする四大学は、「千葉圏域コンソーシアム」を構築し、「ユニバーサルコミュニケーション」に向けた教養教育のカリキュラムの開発と、連携の発展的展開に資する多様なシーズの育成に取り組んでいきます。具体的には、世界の多様な外国語や異文化への理解、あるいは文字・音声のみに依拠しない手話等のコミュニケーションへの理解を含む「ユニバーサルコミュニケーション」のための教養教育に関するカリキュラムを開発すること、ならびに、かかるカリキュラムを実施していく際に発生する問題点を共有しつつ、その実施方法を不断に改善していくためのFD実施体制を構築すること、などを当面の目標としています。この目標に向けて、コンソーシア

ム参加大学は内外の教養教育の実情について調査を進めるとともに、独立行政法人メディア教育開発センター等とも連携しつつ、eラーニング教育システムを試験的に導入して一部試行に移し、ICTを利用した教育支援の開発に着手します。また、開発されたカリキュラムを効率的に共有化していくために、サーバや教育用端末など、普遍教育部門におけるICTの基盤的整備を実施していく予定です。

また、この取り組みは、その成果を生涯教育・実践的応用教育に発展的に応用し、大学教育の枠内のみに止まらない複合的・総合的事業をコンソーシアムで展開することも、中長期的な戦略として想定しています。本事業へのみなさまのご支援をお願いいたします（山田賢）。

「新しい授業をつくる 学生による授業提案2008」について

普遍教育ではこれまで学生が企画運営する授業として、「再転車と公共デザイン」、「ノートテイクー情報保障を考える」を開講してきました。この経験から今年度はさらに学生による授業アイデアを掘り起こすために、千葉大学教育プロジェクト経費事業として、普遍教育センターから「学生との協働による授業開発（授業アイデア公募と結びつけて）」を申請し、標記の事業を実施することになりました。

８月から９月にかけてのほぼ２ヶ月間が募集期間でしたが、16件のアイデアが寄せられました。書類選定、10月31日に行われたプレゼンテーションを経て、最終的に以下のような結果になりました。

＜最優秀賞＞ ２件
安東正治さん（工３）「ディズニーに学ぶ人生学～人生を豊かにする魔法とは～」
釜蓋卓也さん（教１）「〈ディズニーランド学〉－夢と魔法の国から学ぶ－」
＜優 秀 賞＞ １件
林　沙織さん（教３）「千葉大進化論～ CHALLENGE DAYS ～」
＜入　　賞＞ ４件
関本康二さん（文２）「世界を変える社会起業家」
五十嵐鈴さん（教２）「ファッションの文化と未来」
黒木俊輔さん（文１）「アフリカを学ぶ （副題）アフリカ文化・歴史演習」
藤生雄太さん（人社研１）「コミュニティと経済を考える」

結果として「ディズニー」をテーマとする２件が最優秀になりましたが、学習目標、授業計画、授業内容、参考資料等の点で傑出していたと判断されました。この２件のアイデアは一つにまとめる形で来年度の授業として実現させたいと考えております。優秀賞に選定されたアイデアは今夏に西千葉キャンパスを使って実施された地域の子供たちのキャンプを授業として展開しようとするものですが、授業化する方向で準備を進めつつあります。入賞に選定された４件も魅力的な提案でした。来年度の授業とするには、授業計画や授業内容の点でまだ解決すべき課題が見受けられましたが、テーマそのものは興味深く、細部を詰めれば魅力的な授業になる可能性が感じられました。

残念ながら選にもれた９件は、紙幅の関係からここでは紹介できませんが、アイデアを寄せてくれたことに大きな意味があったと考えています。実は、初めての試みであったので、学生から何の反応もなければどうしようかという心配もありました。しかし結果的に16件、17名の学生がアイデアを寄せてくれました。教育改善の一つのきっかけになればと思いますし、これを一つの機会として、多くの学生が自らの学ぶ場に積極的な関心を持ってくれるように引き続き努めていきたいと考えています（山内正平）。

第３回「普遍教育に関する学生懇談会」を開催しました（10月21日）

10月21日に「普遍教育に関する学生懇談会」を総合校舎Ａ号館201講義室において開催しました。学生懇談会は本年度で３回目となり、学生からの意見をもとに普遍教育の課題を発見し、さらなる充実のために取り組んでいくことを目的としています。当日は、普遍教育センターの教員のみでなく、各専門教員集団の担当教員・齋藤学長も同席されるなか、各学部から参加した1,2年生を中心に48名の出席者から、普遍教育の授業やカリキュラムに対して日ごろ感じている疑問や提案が表明されました。本年度の出席者の多くは、2007年度から始まった新カリキュラムによる普遍教育の受講生となっています。

懇談会では、情報リテラシー科目、初修外国語科目、英語科目、教養コア科目を中心に、様々な意見が出されました。具体的には、学部学科別指定クラスである情報リテラシー科目の内容の在り方、選択形式になっている初修外国語の在り方、英語科目の時間割編成への意見、時間指定により４科目から１科目を選択する教養コア科目の履修方法についての意見がありました。普遍教育センターでは、これらの意見を整理し、新カリキュラムの理念を前提にしながら、普遍教育をさらに充実していくための検討を進めています。当日の記録を普遍教育センターのウェブサイトに掲載する予定です。ぜひご覧ください。なお、12月には教養コア科目にテーマを限定した第２回の学生懇談会の開催を予定しております（白川優治）。

第２回普遍教育シンポジウムを開催しました（11月14日）

11月14日に「第２回普遍教育シンポジウム　普遍教育の新展開－小人数セミナーによる主体的な学びを目指して」を開催しました。今回のシンポジウムでは、来年度から教養展開科目に導入される小人数セミナー「テーマゼミ」を中心に、小人数セミナーの意義や課題をテーマとするものでした。東北大学・京都大学から講師を招き、それぞれの大学の教養教育での小人数セミナーの取り組みの現状と課題をうかがうとともに、千葉大学の普遍教育科目で現在取り組まれている小人数授業の報告が行われ、議論がなされました。50数名の参加者を得て、有意義なシンポジウムとなりました。その詳細は次号の普遍ニュースレターに掲載する予定です。

言語教育センターより

＜英語教員向けの公開講座＞

地域の英語の教員を主な対象とした公開講座「英語の構造」（千葉県教育委員会後援）を８月23日（土）に開催しました。参加者は県内の小学校、高等学校、大学の各教員と、学部生、院生、および英語に関心を持つ一般の方々でした。東京都からも高等学校の教員の参加があり、３時間にわたる講座のなか、活発な質疑応答もあり、盛況のうちに終了しました。この講座は、「現代GP」の一環として、当日配布したハンドアウトとともに映像付きの教材として公開する予定です　（言語教育センター　久保田正人）

＜市民向け中国語公開講座＞

11月14日（金５時限）から三週連続で、言語教育センター主催公開講座「音・字・文から見えてくる中国語の世界」が始まりました。これは昨年の初修外国語公開講座「言葉を知れば文化がわかる―ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語の世界」に続くもので、今年は中国語に特化した試みです。60名近い参加があった初回は、中国語の発音について紹介・練習し、かつ関連する中国社会文化も垣間見、好評でした。第二回は漢字、最終回は文法について紹介しつつ、いま世界が注目する中国の現在と伝統文化を観察する予定です　（言語教育センター　橋本雄一）。

普遍ニュースレター　No.2　2008年12月発行

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33　Tel：043-290-3609（普遍教育課）
E-mail: fuhen-info@office.chiba-u.jp　URL: http://fkc.chiba-u.jp/